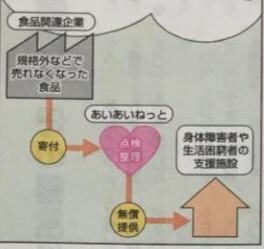


ほっと ニュース

184 フードバンク きくちろう

この団体のリーダーは、病院に勤める管理栄養士。患者に栄養指導をしていて、経済的に追い込まれ、十分な食事ができないお年寄りが、増えていくと感じ、この活動に着手したんです。

医療機関や社会福祉施設の関係者が約20人が参加し、ゆくゆくは、食品を使った高齢者の配食サービスや、住民交流などの活動にも手を広げているそうよ。



「いやー、まいっしょ、どうしたんですか？」

「実は僕、食品工場に勤めてるんだけど、この前、パッケージの文字を間違えて印刷しちゃってね、売りに出さず、全部捨てちゃったよ。」

「なんかない、もったいない、気がするなあ……」

「そういえば、きくちろう、フードバンクに寄付してあげようかな。」

「常連のサラリーマン」

「食品の問題がないのに、包装の不備や返品などで、売れ残った食品が、食事に困っている人に配る活動よ。」

「アメリカで盛んで、日本でも2000年以降、東京や関西で行われてきたんだけど、徐々に全国に広がる兆しを見ているのよ。」

「*1960年代に始まったアメリカには200以上の組織がある」

「じゃあ、具体的な活動例を説明するわね。」

「はい、教えてあげよう。」

「じゃあ、具体的な活動例を説明するわね。」

「はい、教えてあげよう。」

「じゃあ、具体的な活動例を説明するわね。」

「はい、教えてあげよう。」

「フードバンク沖縄は、沖縄県豊見城市の主婦が、2007年秋にフリーマーケットで、1人でチラシを配るところから始まった団体よ。」

「今では、兼業主婦や学生ら18人のボランティアが、食品の回収配達や広報にたずさわっているわ。」

「離島や遠隔地から入・運送する子どものための滞在施設にも届けていて……」

「息子の付き添いのため、滞在したある主婦は、『缶詰などを使う』、家と同じように料理ができて助かったと話そうよ。」



「企業からの寄付は、まだ多くないけど、家庭にある米や缶詰、菓子などを寄付する人が増えていっているわ。」

「保護者らに、食品の寄付を呼びかける保育園も出てきたんです。」

「はい、保護者らに食品の寄付を呼びかける保育園も出てきたんです。」

「東京都のNPO法人「セカンドハーベスト・ジャパン」(2HJ)は、2002年に発足、年間約350万の食料を、首都圏だけでなく、各地の施設に届けてきた。」

「今年7、8月に、札幌・名古屋・大阪・福岡など、全国9か所、説明会を開いたわ。」

「ボランティアを各地に増やし、ネットワークを充実させたいと考えていて……」

「支援を必要とする地域の施設の情報、ボランティアが集めるニーズに応じて、食料を送る仕組みをつくる予定よ。」

「ボランティア希望者を対象にした研修会も検討中だというわ。」



「農林水産省の推計によると、日本では食用向けられる資源の5.10%程度にあたる約550万t、90万t〜1年間の量が、まだ食べられるのに廃棄される『食品ロス』というわ。」

「規格外や返品、売れ残り、食べ残しなどの理由で、食品メーカーや小売、外食産業などが、廃棄している量が、300万t〜500万t。」

「家庭で捨てられる量が、200万t〜400万tとみられる。」

「家庭で使わずに捨てた理由を調べると、『鮮度の低下、腐敗、カビの発生』、『消費期限・賞味期限が過ぎたため』という回答が多かったそうよ。」



「『売った食品を、必要の人にとける』、フードバンクって、有意義な活動なのね、もっともっと知りたいなあ。」

「フリージャーナリストの大原悦子さんが7月に著書『フードバンクという挑戦』(岩波書店)という本を出しているわよ。」

「機会があったら読んでみようよ！」

「今度、売れなくなった食品が出たら、フードバンクに届けようかな。」



「名古屋では、2HJに協力し、愛知三重両県の施設に食料を配っているボランティア約20人が、NPO法人「セカンドハーベスト名古屋」の設立を準備しているわ。」

「なるほどねえ、ところで、余った食品って、そんなにたくさんあるの？」

「はい、たくさんあるのよ。」

各団体の連絡先 (ウェブサイト、電話、メール)	
あいあいねっと	http://www.enjoy.ne.jp/aiainet/
フードバンク沖縄	http://foodbankokinawa.ti-da.net/
セカンドハーベスト・ジャパン	03-3838-3827、 info@2hj.org
セカンドハーベスト名古屋	052-913-2810

